

事業計画書

事業名	ゆいの花音楽会
団体名	松戸ウインドアンサンブル

★貴団体が申請する事業についてお伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

- ・核家族化が進み、町内会での個々の役割が薄れ、ご近所付き合いが希薄となっている現在、高齢者の孤独死や子供への虐待など個人の「孤独」や「無縁社会」に対しての問題が増加している。
- ・行政や自治体は問題を抱えている個人や家族に対しての援助を行っているが、個人・家族と地域の人々とのつながりを結んでいくことは難しいのではないだろうか。
- ・しかしながら、個人や一団体が出来ることはかなり小さく限局されてしまい、また効果の評価についても難しい。
- ・ショッピングモールや市の行事・老人ホームなどで演奏活動をしていくなかでそこで出会った仲間と一緒に地域の結びつきが薄い新興住宅地と地域を限定し、また孤独やひきこもりに悩む人へ広く広報活動を行い、演奏活動や音楽にふれあう講座などの開催で地域の活性化（ふれあい）や孤独やひきこもりに悩む人たちへのつながりに役立つ事は可能ではないだろうか。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

- ・音楽を共に一緒に奏でることや、奏でた音楽を聴いたり歌ったりすることで、その場にいる人々がつながりを感じられ、身近な音楽を主体に、「無縁社会」を「人と人のつながりがある社会」に近づけたいと考えている。
- ・また手作り楽器の作成講座やブランクの長い方などには楽器を体験出来る講座。日々の合奏練習の場の提供など。さまざまな活動を通じ人と人とがふれあうことで、より深化した人間関係が構築できると考える。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

① 音楽ができる場の提供「松戸ウインドアンサンブル」を基盤に、初心者やブランクがある方でも演奏技術のレベルに関係なく、音楽を共に楽しみたい方に月に1回、合奏が出来る場の提供をします。

② 演奏会の開催

※観客の方も共に演奏会を楽しめるような「ゆいの花音楽会」を地域の公園にて年二回開催する。

- ・「松戸ウインドアンサンブル」に集まる楽団員と一緒に演奏する。
- ・楽器経験者で楽器を持って来て頂いた方には楽譜を配布する。
- ・演奏している曲の歌詞カードを観客に配布して、可能なら歌ってもらう。
- ・ブランクの長い楽器経験者で楽器を持っていない方に所有の楽器がある場合ふれて頂けるような講座を開催します。(指導・講師は松戸ウインドアンサンブルの団員がします。)

③ 楽器作りの講座

※楽器経験者ではない方でも参加出来るように手作りの楽器などを作成していただき簡単にわかりやすいリズムと一緒に演奏会に加わってもらいひとつの音楽を共同で作ることの喜びを伝えたい。

・想定されるスケジュール

	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
4月～6月	広報活動(年間を通して実施) ゆいの花音楽会 春フェスタ 楽器作りの講座 合奏練習の実施	場所：ゆいの花公園（要請） 対象者：参加者全員 場所：青少年会館 対象者：参加希望者
7月～9月	合奏練習の実施	場所：青少年会館 対象者：参加希望者
10月～12月	ゆいの花音楽会 秋フェスタ 楽器作りの講座 合奏練習の実施	場所：ゆい花公園（要請） 対象者：参加者全員 場所：青少年会館 対象者：参加希望者
1月～3月	合奏練習の実施	場所：青少年会館 対象者：参加希望者

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

ゆいの花音楽会の開催実施

1回の演奏会(すべての講座を含め)で参加者およそ100名×年2回=200名に提供する。

毎月の合奏が出来る場の提供は 5名×年12回=60名に提供する。

・ゆいの花音楽会への参加登録者を募集しアンケート調査や参加者の意見などを集約し次期演奏会に反映していく。また登録者には手紙の配布や開催のお知らせを伝えることで継続あるつながりの場を提供できるようにする。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

参加者の意見や要望を演奏会に反映して、さらに多くの方々に演奏会に興味を持って参加してもらえるように努力していく。

さらに参加者が集まって、そこから派生した団体が新たな地域活動を起こすときには、松戸市との調整を行いバックアップしていく。

このイベントで参加した方々と一緒にさまざまな演奏会活動をし(ショッピングモールや市の行事・幼稚園・老人ホーム)地域の活性とつながりあるネットワーク作りへと発展させていきたい。

松戸市を地域コミュニティの為の一つの手段である音楽(吹奏楽)が、日本一の盛んな町にしたい。

以上

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
申請者	20000円	20,000円	寄付
	自己資金合計(a)	20,000円	✓
市	助成金申請額(b)	50,000円	✓
	収入合計(c)(a+b)	70,000円	✓

【助成金申請額(b)チェック項目】

1. 対象となる経費(d)欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	楽譜・印刷費	32,000円	楽譜8曲×4,000円
	コピー代	10,000円	1,000枚×10円
	雑費(手作り楽器作り)	10,000円	マラカス 作り1個 @50円×200個
	会場費(合同合奏練習場所)	6,000円	@500円×12回
	通信費(切手・手紙)	2,000円	50円×40枚
		対象となる経費合計額(d)	60,000円
その他	雑費(シャボン玉材料等)	10,000円	
	その他経費合計額(e)	10,000円	✓
	事業費(f)(d+e)	70,000円	✓

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	五香・六実地区歴史案内と地域活性化
団体名	香実会

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

五香・六実地域の商店街は廃業でシャッターも閉まっている所が散見され、活気がない様に思います。また、住民の地域意識が脆弱で、活性化等への取り組みや関心度も低い様に伺えます。

一方、松戸駅を中心から比べると、五香・六実地区は離れていて、観光や資源等も取り残され、観光PR活動も遅れている様に思われます。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

五香・六実地域は江戸時代小金牧でした。明治に入り5番目、6番目に入植され、歴史ある地域です。その残された、文化財等の資源の再発見を行い、その文化財を内外の皆さんにPRします。そして地域の皆さんの愛着心、理解力を深めると共に、大勢の観光客が見学に来られる事で経済効果に繋がるものと思っています。

地域とのコミュニケーションや、五香・六実地域の活性化を図り、明るく元気な街にしたいと思っています。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

地域住民とのコミュニケーションを行い、見過ごしている地域資源の掘り起こしを行う。広報松戸、コミュニティ新聞などに掲載してPRを行う。HPも立ち上げる。

皆さんに周知する事で電車の利用者も増え集客力もアップ、街の活気に繋がります。

・想定されるスケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	桜まつりで歴史文化財のマップ配布 講演会（小金牧について）&地域有力者との座談会、ガイドマップ配布 コースをウォーク案内	マップを配布 地域の有力者と相談 商店街の代表の方と打合せ A・B・Cコース
7月～9月	野馬除土手の清掃活動 スタッフの募集	私有地の文化財の保存に繋げる
10月～12月	講演会（五香六実について）&地域有力者との座談会。コース案内ガイドの実施。新規スタッフ講習会	商店街の代表の方と打合せ A・B・Cコース 新人の現地研修会
1月～3月	マップ・ガイドブックの配布 マップガイドマップ配布	松戸市見本市出展（2回） サポートセンター、六実市民センター

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

- | | |
|------------|--------------------------------|
| 23年 4月～6月 | 講演会&地域の有力者との座談会（小金牧について講演会）。 |
| // | （上記参加者にマップ、ガイドマップを配布） |
| // | さくら祭（六高台）にて歴史文化財のマップの配布 |
| // | 各コース案内（A・B・Cコース） |
| 23年 7月～9月 | 野馬除け土手の清掃活動 |
| // | 歴史文化財の案内説明書を印刷する。（5000部作成） |
| // | 各駅（五香駅、六実駅、元山駅）にて配布活動 |
| // | 新人スタッフの募集と研修会 |
| 23年10月～12月 | 講演会&地域の有力者との座談会（続五香六実について講演会）。 |
| // | （上記参加者にマップ、ガイドマップを配布） |
| // | 各コース案内（A・B・Cコース） |
| // | ガイド活動開始（新人ガイド研修会） |
| 24年 1月～3月 | ガイド活動の実施 |
| // | 松戸市見本市出展（サポートセンター・六実市民センター） |
| // | 来期の決算準備 |

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ・五香・六実地域の歴史再発見と地域活性化の主旨に賛同者とのネットワークを広げる。
- ・スタッフの増員と新人の研修と教育を行います。
- ・ガイドツアーを実施して、内外の多くの市民に呼び掛け、参加を募ります。
- ・さくら祭（六高台）にて歴史文化財のマップを配布します。
- ・イベント、企画などにに基づき宣伝活動を実施します。
- ・地元の小、中学校の社会科の歴史見学の場として、学校に働きかけます。
- ・地域内外の市民に「五香・六実地域の文化財再発見」の講演会を行います。
- ・文化的遺産の保存管理に関して、地権者と行政に働きかけ、保存に努力したいと思います。
- ・活動資金は会費と寄付金（広告）で補います。
- ・発展的に常盤平地区まで案内を広げ拡大を図って行きます。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
申請者	前期繰越金	1000 円	
	年会費	21000 円	@1000×21 名
	自己資金合計 (a)	22000 円	
市	助成金申請額 (b)	100000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	122000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	マップ印刷費	24000 円	@8×3000 部
	ガイドブック印刷費	33000 円	@110×300 部
	講演会&座談会 (2 回)	20000 円	講師料、資料代など
	松戸市見本市出展 (2 回)	18000 円	準備費用、交通費、資料代など サポート S、六実市民 S
	歴史コース案内	17000 円	資料コピー代
	対象となる経費合計額 (d)	112000 円	
その他	会議費	5000 円	会場費、飲み物、コピー代
	交通費	5000 円	外部団体と打合せ交通費
	その他経費合計額 (e)	10000 円	
	事業費 (f) (d+e)	122000 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	成年後見制度の普及啓発と市民後見人の活用促進
団体名	NPO法人 東葛市民後見人の会

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

- 1: 超高齢社会となり、自らの日常生活、財産管理に支障を来す判断能力の衰えた認知症高齢者の増加。(松戸市・高齢化率:平成19年17.6、22年20.1、26年23.7%と急増
・認知症高齢者数:平成16年6,019人⇒20年9,418人に増加:市のデータ)
- 2: 社会情勢の変化に伴う家族形態の変化により核家族化、老人世帯、独居老人世帯が増加し、社会との関わりの減少による社会的孤立、生活環境の悪化に伴い体調管理や日常の金銭管理が満足に出来ない状況。(高齢者の約6人に1人が独居一読売新聞全国版より)
- 3: 判断能力の低下に伴い詐欺等の被害に遭遇する危険が増加。
- 4: 判断能力の低下に伴い家族・身内に財産が侵害・奪われるケースあり。
- 5: この人達を支える専門職が少ない。親族後見も家族間のトラブルが潜在。

上記観点より、未だに周知度、利用度の低い「認知症高齢者を支える成年後見制度」を多くの人に知って貰い、市民がきめ細かく、その支援を必要とする人を支える活動をし、地域課題を解決したい。(現在、比較的高齢化率が低い、近い将来その必要性の高まる新松戸地区から始める)。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

「ボランティア精神で地域社会に貢献する」理念の下、

- 1: 親族でも専門職でもないが、一定の教育・研修を受けた市民が、まずは対象者の日常生活を支える「身上監護」活動をし、本人の心身の状況に応じた生活が出来る様にする。
(生活上の必要資金の管理、行政・病院への繋ぎ、施設入居手続き、病院への支払い等)
- 2: 高度な「財産管理」業務は専門職の指導も受けながら安全・安心な生活を確保する。

- ・上記により、認知症になっても、市民が市民の立場で支え、その人がいつ迄も住み慣れた地域で、その人らしく、尊厳ある暮らしの出来る地域にしたい。
- ・専門家や行政ともタイアップした活動で、安心して暮らせる地域を目指す。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

- 1 : 専門家を講師とした成年後見制度（任意・法定後見）の理解と活用の為の講習会を地域の公的施設にて開催。制度の周知と利用促進を図る。
- 2 : 上記に併せ、マンション、町会等の小規模施設で、よりきめ細かい勉強会の如きを出前形式にて開催
- 3 : 講習会・勉強会にて後見上の「悩み事」を聞く身近で親身になった相談会を設ける。必要に応じ後見受任に繋げる。後見事案に応じ、専門職を活用する。

上記により広く制度を周知させ、認知症高齢者が安心して暮らせる街とする。

・想定されるスケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	地区別講習会の実施：第1回 「成年後見制度の概要理解と利用手続き」相談会等	・講師：法務局管理者、専門家 ・対象者：認知症高齢者と家族他 ・場所：新松戸地区（候補地）
7月～9月	同上	・講師：法務局管理者、専門家 ・対象者：認知症高齢者と家族他 ・場所：常盤平地区（候補地）
10月～12月	高齢者支援連絡会主催の 「マンション」等の勉強会と連携した啓蒙、勉強会	・講師：市の介護予防課、専門家 ・対象者：認知症高齢者と家族他 ・場所：マンション、町会等
1月～3月	地区別講習会の実施：第2回 「成年後見制度の概要理解と利用手続き」相談会等	・講師：法務局管理者、専門家 ・対象者：認知症高齢者と家族他 ・場所：新松戸地区（候補地）

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

- 1 : 定期的講習会、勉強会実施による参加者数増加促進（実績無く数値不記載）
- 2 : 認知症高齢者等の成年後見制度相談件数、後見受任数の増（ " ）
- 3 : 高齢者の詐欺等被害件数の減

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

1 : 24～25年度の助成金の主な使途は講習会などによる制度普及・啓発事業で、併せて利用相談事業（無料）も実施。

助成終了後も、上記講習会を継続的に行うと共に、市民後見人養成事業や関連講演会も実施し、啓蒙事業と制度利用（後見受任）の向上を図る。

2 : 主な収入源は会員増強による安定的な会費収入と後見受任報酬。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	会員年会費	41,200円	会費収入より充当支弁
	自己資金合計(a)	41,200円	
市	助成金申請額(b)	100,000円	
	収入合計(c)(a+b)	141,200円	

【助成金申請額(b)チェック項目】

1. 対象となる経費(d)欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	講師代	80,000円	20,000円×4回
	講習会等案内チラシ印刷代	20,000円	5,000円×4回
	通信費	8,000円	2,000円×4回
	会場使用料	4,000円	1,000円×4回
	消耗品代(用紙代等)	6,000円	1,500円×4回
	対象となる経費合計額(d)	118,000円	
その他	スタッフ交通費(事前含む)	16,000円	1000円×4回×4人
	事前打合せ会費用	7,200円	場所代 2,000円 消耗品代他5,200円
	その他経費合計額(e)	23,200円	
	事業費(f)(d+e)	141,200円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

	2011年10月 不登校支援者交流会開催予定「不登校おうえんねっと」共催 2011年10月 国立女性教育会館にて「勇気づけの親子関係実践セミナー」の ワークショップを実施予定
予算決算規模	今年度予算額 27,000円 前年度決算額 15,000円 ※別紙添付

- ※ 団体の規約・会則を添付してください。
- ※ 役員名簿・構成員名簿を添付してください。
- ※ 今年度予算書、前年度決算書を添付してください。

(第6条関係)

事業計画書

事業名	健康な心を育む勇気づけの対応
団体名	ファミリーサポート・勇気づけ

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

- ・子ども時代に受けたこころの傷はいつ表面化するかは予想出来ません。不登校、引きこもりと言ったように 比較的若い時代に表れることもあれば 成人してからうつ病を始めとする精神疾患として形を呈することもあります。「困難に出会っても乗り越えていける精神力」を育てるという目標を持った 子どもへの対応が必要です。
- ・松戸市の小・中学生の不登校は2010年現在 500名に上っています。小・中学生の不登校の保護者が「勇気づけの対応」を学び、実践されることで 子どもの心の傷の回復を援助出来、再登校を早期化出来ます。これまでの事例では保護者の方が学び始められてから6から7ヶ月で再登校されています。これは長期化することが多いと言われている不登校生への働きかけの方法の中で著しく短いと言われています。
- ・2009年の自殺やうつ病を原因とする経済的損失は2.7兆円と厚労省初調査が出ています。これは松戸市2009年歳入総額の21.5倍という数字です。
- ・長期的観点に立つと 健康なこころを持った人の育成は 家庭の円満、協力的な地域の形成、市の財政、国の財政の負担軽減の一助にもなります。
- ・平成23年度の事業の中で参加者の方から 「松戸市の様々な機関でこどもに関する相談をしたけれど聞いてもらえただけで 解決はしなかった。セミナーを受けて解決に向かった。」という声を頂きました。「傾聴」だけでは 問題の解決にはならないという現実があります。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

- ・「勇気づけの対応」は様々な人間関係に応用できるので 協力的な人間関係の輪がある地域
- ・一人でも多くの不登校、引きこもりの方が再登校、社会復帰を援助できる体制がある地域
- ・不登校、引きこもり、うつ病は「勇気づけの対応」という予防があることを育児、教育に携わる方々に関心を持って頂ける地域

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

- ・子どもの不適切な行動の目的を理解し、行動修正に効果のある「勇気づけの対応」をひとりでも多くの方に知って頂く為の広報活動
- ・乳幼児を持つ保護者の育児を支援する託児のある「勇気づけの親子関係実践セミナー」の開催
- ・問題を抱えたご家族に対する問題解決に向けての対応方法提示の支援活動

(勇気づけの親子関係実践セミナー)

- ・想定されるスケジュール (事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ作製 ・市の関連機関にチラシ配布依頼 ・不登校、引きこもりの子どもを持つ家庭を含む子育て中の家庭への広報活動 ・幼児を持つ家庭への広報活動 ・4月～6月各月3回の講座 	講座：「勇気づけの親子関係実践セミナー」 対象：子育て中の方、不登校のお子さんを持っておられる方 場所：松戸市女性センター研修室 場所：ちばコープ東葛組合員会館
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ作製 ・市の関連機関にチラシ配布依頼 ・不登校、引きこもりの子どもを持つ家庭を含む子育て中の家庭への広報活動 ・幼児を持つ家庭への広報活動 ・7月、9月各月3回の講座 	同上
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ作製 ・市の関連機関にチラシ配布依頼 ・不登校、引きこもりの子どもを持つ家庭を含む子育て中の家庭への広報活動 ・幼児を持つ家庭への広報活動 ・7月、9月各月3回の講座 	同上
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業のまとめ ・チラシ作製 ・市の関連機関にチラシ配布依頼 ・不登校、引きこもりの子どもを持つ家庭を含む子育て中の家庭への広報活動 	同上

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児を持つ家庭への広報活動 ・ 7月、9月各月3回の講座 	
--	---	--

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

- ・ 教師の方々にも「勇気づけ」の対応方法の効果を知って頂けるよう学校組織へのチラシの配布手段を得ること
(保育士の方々への広報は 23年度松戸市協働推進課のご尽力により平成23年9月からお願い出来ることになった。)
- ・ 不登校児童、生徒を持つ保護者の方々に「勇気づけの親子関係実践セミナー」をお伝えして頂けること
(現在、不登校児童、生徒、保護者を支援されている松戸市の市民団体「ひだまり」さんと連携が取れ、広報に協力を頂いている。)
- ・ 子育て中の方々の講座へのご参加を得る
- ・ セミナーの受講者数目標 1回10人を目指し、広報活動を強化する

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ・ 不登校生の保護者の方が実践されると 早ければ数ヶ月で再登校されるようになる「勇気づけの対応」をより多くの方に知って頂く活動
- ・ 「勇気づけの親子関係実践セミナー」の手順、持ち方を保育士、教師という方々にお伝えし、保護者会で役立てて頂けるような活動
- ・ これから育児を始める妊娠中の方、乳幼児の方々に「勇気づけの対応」を知って頂く活動
- ・ 継続して「勇気づけの親子関係実践セミナー」を行う。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
申請者		140,000 円	受講費収入 会場：ゆうまつど 1,000 円×10 人×10 回 =100,000 円 会場：ちばユープ 2,000 円×2 人×10 回 =40,000 円
	自己資金合計 (a)	140,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	240,000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	チラシデザイン料	15,000 円	15,000 円×1 件=15,000 円
	チラシ印刷費 (紙代含む)	30,000 円	10 円×3,000 枚=30,000 円
	アドバイザーへの謝礼金	30,000 円	5,000 円×6 回=30,000 円
	講座講師手当	60,000 円	2,000 円×30 回=60,000 円
	保育費 (保育士謝礼)	20,000 円	2,000 円×10 回=20,000 円
	消耗品：封筒	2,500 円	500 円/束×5 束=2,500 円
	消耗品：レジメ印刷用紙	2,660 円	2,660 円×1=2,660 円

	封筒印刷費	2,500 円	5 円×100 枚×5=2,500 円
	活動資料等を送付するための 切手代や宅配便料	12,080 円	保育園数 47 幼稚園 40 小学校 44 中学校 20 合計 151 80 円×151=12,080 円
	対象となる経費合計額 (d)	174,740 円	
その他		円	
	予備費	65,260 円	
	その他経費合計額 (e)	65,260 円	
	事業費 (f) (d+e)	240,000 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	紙敷石みやの森 保全育成事業
団体名	松戸里やま応援団「七喜の会」

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

【課題】

- ・日本は国土の66%が森林で残り僅かな土地に人が生活している。
- ・古来こうした森林の近くに住居を構え畑を耕し家畜を養うなどの里山を構成して来た。
- ・森林は生活に欠かせない薪などの燃料や家屋の材料として役立ってきた。ここ松戸にもかつての里山をしのぼせる樹林地が点在する。
- ・樹木の減少は排気ガス、二酸化炭素の吸収浄化や雨水吸水、浄化貯留を阻害して地球温暖化、崖崩れや洪水などの自然災害発生の危険を増幅する。
- ・松戸市の緑被率は35.6%〔1988年〕30.6%〔2005年〕と減少している。

〔引用 松戸市都市整備本部 都市緑化担当部 みどりと花の課 2005年市内の緑肥率調査〕

【現状】

- ・手入れが滞っている森にはゴミが不法投棄され周辺を散策する市民へ不快感を与えている。
- ・草木の伐採盗難などにより希少な植物が根絶やしされ森の自然植生が破壊されている。
- ・枯死や倒壊した樹木が放置され下草根笹が陽差しを遮り森の自然再生を妨げている。
- ・地権者は荒れた森が犯罪の温床、火災発生源、環境破壊、壊倒木などによる通行人への被害などを憂慮している。

【背景】

- ・周辺の都市化開発が進み樹林や田畑が宅地化、工場誘致用地に変わってきた。
- ・次世代の農業離れと共に農業従事者の高齢化が進み農林業の維持が難しくなっている。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

- ・森を再生して多くの市民が森に関心を持ち生活圏の一部として活用できる様にする。
- ・「健康と憩いのオアシス」として再生、市民共有の森として守り育て次世代に引き継いでいく。
- ・周辺に残る畑や里山風景と森をつないで自然環境豊かな緑の町松戸の発信地域とする。
- ・近隣のゆいの花公園、園芸生産研究所と合わせた“みどりの回廊エリア”をつくる。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

【事業内容】

- ・森の埋蔵、投棄ゴミの回収清掃、投棄防止や再生活動などを呼び掛け紹介する標識板の設置。
- ・森外周路の除草、枯壊倒木や伸びた枝の伐採、竹垣設置、荒れた市道の補修。
- ・草本植生図による適正な樹木の計画的剪定。枯壊倒木、電線に架かった枝など危険木の伐採。
- ・下草刈り、不要枝の伐採などによる採光取り込み。階段、スロープ取り付けなど散策路の整備。
- ・植生調査、植生図の作成、小動物の生態調査、樹木名板取り付け、ゾーン毎の案内板作成。
- ・以上の活動を毎月第一火曜日、第二木曜日、第四土曜日の定例活動日に実施する。

- ・以上の活動を毎月第一火曜日、第二木曜日、第四土曜日の定例活動日に実施する。

【活動内容】

- ・平成24年3月「春休み森の散策会」を開催〔本森を初めて近隣市民の方々へ紹介〕して森の役割と保全の必要性を理解して頂く。
- ・5月「松戸里やま応援団オープンフォレスト」開催。
- ・森づくりの先進事例見学、インストラクター講習会などへの参加。
- ・刈り込み機など用具の使用方法、取り扱い知識技能の習得に向けた講習会参加。

- ・想定されるスケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・森林インストラクターによる診断 ・里やま応援団オープンフォレスト開催準備〔5月〕 ・整備、調査観察、記録。前期ゴミ回収分別〔6月〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例活動日に実施〔第1火曜、第2木曜、第4土曜日〕 ・里やま応援団、石みやの森のリーフレットなどによる活動紹介と協力会員募集。 ・ゴミ投棄防止の呼び掛けポスター作成 ・樹木名称板の作成取り付け ・森内の散策路整備、枯倒木などの伐採
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み散策会開催準備 ・道具の取り扱い講習会参加 ・整備、調査観察、記録など 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例活動日に実施〔第1火曜、第2木曜、第4土曜日〕 ・市松グランド側市道の安全整備〔竹垣補修、枯倒木の処理など〕 ・森内の散策路整備、枯倒木などの伐採 ・他会の森整備作業、講習会参加
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・「花とみどりの回廊ウォークー秋」開催〔11月〕準備 ・森林インストラクターによる診断 ・整備、調査観察、記録など ・保全管理についての講習会参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例活動日に実施〔第1火曜、第2木曜、第4土曜日〕 ・行事計画検討 ・森内の散策路整備、枯倒木などの伐採 ・各種講習会、先進事例見学会参加
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・「花とみどりの回廊ウォークー春」開催〔4月〕準備 ・整備、調査観察、記録など ・次年度活動計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例活動日に実施〔第1火曜、第2木曜、第4土曜日〕 ・行事計画検討 ・年次総会開催

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

- ・定例活動日〔月三回〕による定期的保全整備実施。
- ・森の整備率を75%達成する。〔23年度50%達成、25年度100%目標〕
- ・24年度に市民参加の「花とみどりの回廊ウォーク」の実施検討。
- ・市の主催する協働事業行事へ積極的に参加して活動の理解を広げ新たな会員を増やす。

〔24年度 新規会員 2名増員〕

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ・ 樹齢年数の高い枯木などの伐採作業に必要な技能講習〔チェーンソー、刈り払い機など〕、取り扱い技術講習会受講。
- ・ 森の特徴を生かした〔常緑樹林区域と落葉樹林区域がある〕計画的整備。
- ・ 散策会観察会などのイベントを継続開催し、森の保全活動にたいする市民の理解を広げ一緒に汗を流せる会員を増やす。
- ・ 健康と癒しが得られ、幼児やお年寄りも安心して散策できる優しい森を目指した活動推進。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
		14,000円	年会費 @1000円×14名=14,000円
	自己資金合計 (a)	14,000円	
市	助成金申請額 (b)	100,000円	市民活動助成金【協働推進課】
	その他	30,000円	みどりと花の基金助成金【みどりと花の課】
	収入合計 (c) (a+b)	144,000円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
	交付対象経費	作業用具等	24,400円
ターニングストラップ 1 15,000円			
ポイズンリムバー 4 4,400円			
資材等		45,000円	木製杭 [30本] 12,000円
			シュロ縄 [4巻] 2,000円
	麻ロープ 6,000円		
	樹木名板材料 15,000円		
	ペンキ等塗料 10,000円		
森の散策会、里山オープンフォレスト等イベント開催費用 インストラクターによる森の診断	50,000円	紙・マジック・プリンター インク・広報ポスター製作等 30,000円 アドバイザー謝礼金 2名 20,000円	
対象となる経費合計額 (d)	119,400円		
その他	広報通信資料費	10,240円	通信費 [@500円×4人] 2,000円
			会議費 [@500円×4回] 2,000円
			資料作成費 4,000円 郵送料 [@80円×14名×2回] 2,240円
飲料水補助費	14,360円	飲料水・紙コップ等 14,360円	
その他経費合計額 (e)	24,600円		
事業費 (f) (d+e)	144,000円		

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	紙敷石みやの森 保全育成事業
団体名	松戸里やま応援団「七喜の会」

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

【課題】

古来、人間の生活圏には樹林と田畑を中心とした里山があり農業や林業により食と住居、薪の採取など密接な関わりを持ってきた。現在これらの貴重な樹林が地域から減少している。
保全育成により衰退を食い止める必要がある。

【現状】

- a. 松戸市は北総台地の中にあり豊かな緑に溢れていたが、1988年35.6%だった緑被率も2005年には30.6%と減少してきた。(緑被率=樹木・草花・水・土・空など広義の概念)
- b. 市も緑の基本計画を策定して緑被率減少に歯止めをかけるべく様々な取り組みをしている。
- c. 私たち七喜の会は、里やま応援団7期生として多くの先輩応援団の指導の下に「紙敷石みやの森」を拠点に保全活動を推進している。
- d. この森は紙敷2丁目に位置し北総鉄道沿いにある。市立松戸高校、日本園芸生産研究所、県水道局給水場、八柱霊園などに隣接し有料老人ホーム、テニスコート、少年野球グラウンド、新興住宅やマンションなど幼若壮老の世代が集まる市街地の中にある。
- e. 森の面積は約1ha(1万㎡)あり、往時この一帯が馬の放牧場であったことを伺わせる野馬土手が築かれ、全体が起伏に富み低地では水田跡地と思わせる場所もある。また会名称の由来となった延宝四年(1676年)建立の石の祠が中央に祭られこの森が永く生活を支えてきた貴重なものであることが推察できる。
- f. 近年は手入れも行き届かず、樹林内には枯死木や折損木、倒木が放置され中低木の枝が繁って陽差しを遮り森の自然再生を妨げている。
- g. 周囲には市道があり市民の散歩道にもなっているが、荒れた森特有の問題としてゴミの不法投棄(有害物質などによる地中汚染も心配)や無断立ち入り、伐採など犯罪の温床化を招くものと市民の人達の悩みになっている。

【背景】

- a. 高度経済成長と共に都市化が進み樹林や田畑が宅地や工場用地に変わってきた。
- b. 少子化と高齢化及び社会生活の変化に伴い、森が生活に直接果たす役割が後退し合わせて資産価値の低下と樹林地主の後裔者不足がある。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

- a. この森の周辺も宅地化が進み緑のエリアは年々狭まっている。前述の様に周囲を取り囲む学校や霊園、園芸生産研究所、水道給水場などは「緑の環境と非宅地地区」を条件に設置されたと考えられる。
- b. 鉄道の開通、駅の設置により住環境が整ったこの地域の中であって、この森は近隣市民の健康

と癒しをもたらす貴重な市民共有の財産として活用されるべきと考えている。

- c. 日本の里山の原風景をイメージしながら、持ち出さず持ち込まずの基本理念をもとに草花や水溜りに生きる昆虫、ウサギやリスが巣営し、栗や椎の実が茂り、椎茸が生える森に再生して幼児を抱えたお母さん、少青年、働きざかりのお父さん、車椅子のお年寄りなど幅広い年齢層が安心して憩い交流できる市民の森にしたい。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

【活動内容】

※平成23年後半から市民が利用できる様に整備と準備を進める。(段階的に開放していく)

森の保全活動は凡そ次の様な課題解決につながる。

- a. 適正な樹木の剪定伐採などにより、延び過ぎた枝葉による街路灯電線などへの接触、朽ちた樹木の折損による通行者への落下、落葉による住宅区域への散乱などを防止する。
- b. 有害ゴミ等の不法投棄による森や地質の汚染防止をはじめ、不審者の侵入による犯罪の温床化、火災など不測の災害防止を図る。
- c. 定例活動の実施
- ・毎月第一火曜日、第二木曜日、第三土曜日を定例活動日とし月三回実施する。また必要に応じて臨時活動日を設定する。
- d. 具体的活動
- ・22年度に策定する森の利用目的および目標林型に基づいた整備作業を実施する。
 - ・樹木の植生調査、草本調査、植生図の作成。小動物の生態調査観察などを行う。
 - ・枯れ死木、折損木、倒木などの整理、下枝処理、下草処理など。これらは全てバイオネットを設けて堆肥化、カブトムシやカミキリなどの昆虫孵化、家庭菜園などへ有機肥料として市民へ還元する。
 - ・投棄ゴミの回収、分別、市の回収車手配と運搬。投棄禁止の啓蒙掲字板を設置する。
 - ・会員の知識、技能のレベルアップを図るため技能講習会、観察会などに参加する。
 - ・保全活動を広く市民に知ってもらうために案内板を作成して森の入口に設置する。

・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・整備作業（枯死木、折損木、倒木、下草などの整理及び歩道整備） ・植生調査、植生図作成と補正、昆虫及び小動物観察調査とまとめ ・投棄ゴミ回収分別（6月） ・道工具収納庫の製作設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例活動日に実施（臨時あり） ・運用、作業、調査の担当班別に作業内容をスケジュール化。（紙敷石みやの森） ・他の里やま応援団活動エリア。
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・整備作業（枯死木、折損木、倒木、下草などの整理及び歩道整備） ・植生調査、植生図作成と補正、昆虫及び小動物観察調査とまとめ ・巣箱（フクロウ）の作成設置 ・作業道具取り扱い実技熟練化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例活動日に実施（臨時あり） ・チェーンソー、草刈り機などの電動工具の取り扱い講座参加。（代表参加）
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・整備作業（枯死木、折損木、倒木、下草などの整理及び歩道整備） ・植生調査、植生図作成と補正、昆虫及び小動物観察調査とまとめ ・投棄ゴミ回収分別（12月） ・案内標識作成設置（散策会準備） 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例活動日に実施（臨時あり） ・里やま応援団、里山プロジェクト等が主催する講座へ参加。
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・整備作業（枯死木、折損木、倒木、下草などの整理及び歩道整備） ・植生調査、植生図作成と補正、昆虫及び小動物観察調査とまとめ ・春休み森の散策会(仮称)開催 老人ホーム、少年野球チーム、ご近所の方との交流。 ・知識技能のステップアップ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例活動日に実施（臨時あり） ・森の散策会開催のお知らせチラシ作成、松飛台駅などで地域住民へ配布し呼び掛け。 ・他の里やま応援団へ協力要請。

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

*活動目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

- 森の整備率を50%達成する。2年目（24年度）75%、3年目（25年度）100%
- 24年3月初めての市民参加イベント「春休み森の散策会」を開催する。
- 一緒に作業してくれるサポーターを一人でも増やし、自分たちの森としての保全活動の理解と協力を求める。（現在千葉大生が特別参加）
- そのため毎月3回（第一火曜日・第二木曜日・第四土曜日）の作業を定例実施し、活動の進捗状況（グラフ等で表示）、活動の実際（活動報告書など）を掲示板などで地域市民へ紹介する。
- 森周辺的美観整備とゴミゼロ活動を継続して行い、24年度「ゴミ投棄ゼロ」を達成する。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- a. 「石みや様の森がある街・紙敷」をキャッチフレーズに、300年余の歴史的市民財産として保全するため、リーフレットなどで広報活動を行い地域市民の関心と理解を深める。
- b. 助成金により一部の道工具および収納庫を購入の予定であるが、樹齢100年近い大木の整備は人の力では太刀打ち出来ない。倒木切削のチェーンソー、大木処理用ウィンチ、ロープ、掛矢、下草刈り機など逐次準備して本格的な活動を展開していく。(ヘルメット、鎌、鋸、鋏などは個人で購入)
- c. 森を守るためには一定サイクルでの伐採、下草刈り、枝落としなどの手入れが必要。年間を通しての保全活動を行い、散策会や観察会の定例化を図る。
- d. 動物や昆虫などの観察エリア及び傾斜の強い場所に手摺りや階段を取り付け市民利用の安全を図る。安心して散策できる森を保全活動の目標とし、将来は車椅子生活など弱者と言われる人の散策も可能な森に整備する。
- e. 市の協働推進課、みどりと花の課や里やま応援団と協力して、次の世代へ引き継ぐサポーターを育てる。
- f. 森の再生には永い時間を要する。また高枝の間伐、老化した大木の伐採作業など高い技能を要する。技能講習会への参加、先輩の里やま応援団等の指導支援を受け技能の熟練度を向上させる。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
申請者	前年度繰越金及び会費	24,002 円	前年度繰越金 7,002 円 年会費 1,000 円×17名=17,000 円
	自己資金合計 (a)	24,002 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
収入合計 (c) (a+b)		124,002 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	作業用具費 等	61,000 円	剪定バサミ (大) 1 8,000 円 掛矢 (大) 1 4,100 円 鎌 3 7,500 円 スコップ (大) 1 5,000 円 用具収納庫 1 31,000 円 測量用具 1 5,400 円
	散策会開催広報活動費 消耗品・事務用品費	55,000 円	イベント開催チラシ・ポスター等 製作及び飲料費 20,000 円 カレー/用紙 等 20,000 円 テープ・紐他 文具費 5,000 円 活動案内掲示板製作 10,000 円
	対象となる経費合計額 (d)	116,000 円	
その他	通信・会議・資料補助費	6,000 円	500 円/年×4名=2,000 円 (通信) 500 円/回×4回=2,000 円 (会議) 2000 円/年×1名=2,000 円 (資料)
	飲料水補助費他	2,002 円	
	その他経費合計額 (e)	8,002 円	
事業費 (f) (d+e)		124,002 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

※ 役員名簿・構成員名簿を添付してください。

※ 今年度予算書、前年度決算書を添付してください。

(第6条関係)

事業計画書

事業名	AEDの正しい使用法を広めたい事業
団体名	デフィブリーるの会

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

☆AEDについて昨年までの状況と大きく異なる点が3つあると感じています。

①東日本大震災に伴い、「命」について、皆改めて考え、感じている。

②サッカーのビッグな選手「松田選手」の死亡事故はAEDを大きく浮き彫りにした。

③救急医療の財団が「AEDを市民目線による使用率」に焦点を当て始めた。

☆この状況の中で、

・平成23年9月現在、松戸市内に設置されている「AED」は336台。前年比+54台。

一般の人によるAED使用率は2%前後と、まだ向上していません。

・全国での市民による使用件数は583例、前回調査比+150例と向上し、使用率も向上していると報告されていますが、2%強という使用率はあまり変わっていないようです。

・心肺停止で倒れた人に対する市民による対応法も検討され、「AED」使用と同時に「心臓マッサージ」を最優先させ、人工呼吸を条件付けしないで啓蒙していくことになりました。

・その様な条件の中で、「AED」をより市民目線で啓蒙していく重要性が指摘されています。

●具体的には、①救急隊による救急救命講習を簡略化して、1時間講習を設けるようです。

②若年層への啓蒙。中学2年生の授業でカリキュラム化の検討がされています。

③救急処置で熟練度別に対応する新しい概念が導入されるようです。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

●私たちの目の前で倒れた人に対して、「一歩踏み出す勇気を・・・！」

・一般の人にとって、AEDを使って救命処置をするのはとても難しい。

なぜなら・救急救命の手法が分からない

・倒れた人に触れる事の抵抗感

・結果が悪かったら…という不安

・心臓が止まっていなかったら？ 他の原因では？

・国民性・・・かわり合いたくない、他人の前で恥ずかしい、誰かがやってくれるだろう。

とされています。

●私たちは、もし倒れている人に遭遇したら「心臓マッサージをやり、次に救急車とAEDの手配を！」

この救急救命の手順を、手軽に体験して貰う事が松戸の救命率を上げるために重要だと考えます。

●「気軽にAEDに触れて慣れて貰うことが最も大切」

- ・AED使用の抵抗感を少なくしたい。
- ・心臓マッサージにも慣れておいて欲しい。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

- ・私たちの会のスタッフが、AEDの使用法や救急救命の第1歩の体験会、講習会を実施します。突然の要請や短時間の講習会など、気軽に要請して貰いたいと考えています。

その内容は、

- ① 心臓マッサージの実際を体験する。(マネキン人形を使って)
- ② AEDに触れて貰う。作動させてみる。(トレーニング用AEDを使って)
- ③ 救急救命の初歩を学びます。

- ・講習会、体験会をいつでも、どこでも行います。

- ・父兄に知ってもらいたい・・・PTAで

- ・中学生、高校生、大学生に知ってもらい、緊急時のリーダーになってもらう。(Let's体験など)

・想定されるスケジュール(事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・半期見直し会 ・生涯学習展示会 ・小学校家庭教育学級体験会 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動助成金受けに伴い。 ・聖徳大生涯学習イベント ・市内小学校
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸献灯祭り体験コーナー実施 ・Let's体験ボランティア受入れ ・夏祭り体験会 ・施設主催バザー体験コーナー実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・献灯祭りの要請 ・サポートセンター事業に協力 ・町会の要請 ・施設からの要請
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園体験コーナー ・音楽会でAEDの報告講話 ・スポーツジムAED講習会 ・自衛隊祭り体験コーナー ・家庭教育学級体験会 ・福祉フェア体験実演コーナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内AED設置幼稚園の要請 ・森のホール ・市内ジムの要請(松田選手死亡事故の反省) ・松戸市助成事業化を聞いての要請 ・相模台小学校の要請 ・小金原福祉協議会の主催
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級体験会 ・松戸市見本市キャラバン参加 ・見本市参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部小学校要請 ・常盤平、六実、馬橋 ・サポートセンター

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

参加者数は①イベントで 前年・600名→本年見込・3か所増の1,000名→次年度・自衛隊増で1200名

②講習会 前年・120名→本年見込・140名→次年度・200名

といずれの催しにおいても増加が見込まれます。

よって、「気軽にAEDに触れて、馴染んでもらう」活動を以下の優先順位で取り組みます。

- 1) 小学校の家庭教育学級を中心に父兄に馴染んでもらう。
- 2) 多様な事業体からの要請に対応し「AEDが露出する場面を多くする」・(例・キックジム講習)
- 3) 市民活動助成事業合格に伴う、要請箇所の変化を受けていきたい。

例・聖徳大生涯教育フェア、自衛隊催し、障害者施設催し、献灯祭り参加など

- 4) 他の活動団体とのコラボレーション

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- 1) 助成処置を受けた実績を踏まえ、確実な講習会活動、体験会活動を継続しAEDによる救急処置の一層の普及を図る。
- 2) 運営資金は今後、募金や寄付行為に頼ることになるが、私たちの団体を市民活動助成団体として位置づけて貰った実績をアピールしていきたい。
- 3) 市民目線の「救急救命とAED」をつなげる活動を続ける。

以上

(第6条関係)

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	繰越金 寄付金など 講習会講演料など	200,000円	前期繰越金 94,434円 寄付金 70,000円 募金講演料など 35,566円
	自己資金合計(a)	200,000円	
市	助成金申請額(b)	100,000円	
	収入合計(c)(a+b)	300,000円	

【助成金申請額(b)チェック項目】

1. 対象となる経費(d)欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

対象	項目	金額	積算内訳
----	----	----	------

	広報紙制作費	20,000 円	
	訓練用人形・AED レンタル料	84,000 円	人形 1 回 6,000 円 / 3 日 × 7 回 AED 1 回 6,000 円 / 3 日 × 7 回
	講師謝礼	20,000 円	1 回 10,000 円 × 2 回
	対象となる経費合計額 (d)	124,000 円	
その他	会議、備品、管理費など	70,000 円	プリンター、デジカメなど
	備品 AED	106,000 円	訓練用 AED 1 台
	その他経費合計額 (e)	176,000 円	
	事業費 (f) (d+e)	300,000 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

(第6条関係)

事業計画書

事業名	難聴者にやさしいまちをつくろう！事業
団体名	ユニバーサル・サウンドデザイン

★貴団体が申請する事業について、
お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

- ・松戸市の高齢者は、全人口 478,986 人の 20%を占める 97,582 人となっており5人にひとりが高齢者となっています。
- ・株式会社第一生命経済研究所レポートによれば65歳以上の高齢者の約半数ちかくの方が知らず知らずのうちにテレビの音量が大きくなってたり、話す声が大きくなるなどの難聴による症状があると伝えています。
- ・難聴になることで外部からの情報が途絶え、人との対話が少なくなり他社とコミュニケーションする能力が衰えてしまうことで脳の老化がおこりボケの引き金になるとの報告があります。(東京大学先端研究所 大沼教授)
- ・上記を松戸市にあてはめると約5万人の方が聴こえに関してなにかしらの問題を抱えている可能性があるということになります。
- ・松戸市のNPOや市民団体や行政主催のセミナーや講習会に訪れた高齢の参加者の意見を聞くと「ゆっくりはつきり話すなど、話し方に工夫してほしい」、「会場の音響設備をもっと聴き取りやすくしてほしい」などの要望があがってきており聴こえの問題が顕在化していることが分かりました。
- ・身内の方が難聴や中途失聴になっても、難聴や聴覚に関する知識が乏しいため、難聴・失聴者本人の生活上のストレスや苦痛を理解できず結果的に「コミュニケーションが円滑でなくなり家族内で孤立してしまう」などの問題が顕在化している。
- ・私たちは「まず聴こえに関する理解を深めるセミナー」や相談会などを実施し「難聴者への配慮ができる地域社会の実現」「難聴に関する理解と難聴者と健聴者とのコミュニケーションの活性化」に寄与したいと思っています。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

- ・松戸市内の聴覚障害に関する知識の底上げを行い「難聴者に配慮できるまち」を実現し「難聴者が住みやすいまち」にしたい。
- ・自治会や市民活動 NPO 主催の講習会は高齢者の参加が多い場合も健聴者を基本として音環境を構成されていますが、講義主催者や講義者自身が参加する方が「聴こえやすい環境を準備することが当たり前になるまち」
- ・「人はだれでも耳が聴こえにくくなる可能性がある」という事実を健聴者にも本講習会を通じご理解いただき、ご本人や家族、友人が難聴・失聴となってしまった場合も、ひとりで悩まず当団体や当団体のメンバーとともに解決していくことを目指します。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

☆私たちの団体の理事長および副理事長は難聴や音響技術に精通しています。顧問や技術協力会社にも 医学博

士や音響工学を専門としており「聴こえに関するスペシャリスト」が参加しています。このスタッフにより「あなたの耳年齢チェック」「聴こえと難聴の理解を深めるセミナー」を実施いたします。

(1) 「聴こえと難聴の理解を深めるセミナー」

・「興味・関心」をもっていただくために

「耳はどのように衰えるのか?」「難聴の発症する仕組みと種類」「よりよく聴く聴き取るために」

の3つを初心者にもわかるようにお話しします。

・「体験・体感」していただく仕組み

耳せんをつけてグループワークを行っていただき難聴になった状況を仮想体験してもらい生活上の不便さを実感してもらう」

(2) 「あなたの耳は大丈夫? あなたの耳年齢チェック! まずあなたの聴力を知ってもらう活動」

「聴力の自己評価」をして自分の聴力を確認する

こちらで用意したチェックシートへ記載いただく方法と、iPhone用聴力検査アプリを利用しその場で自分の聴力を知っていただきます。

上記を事業をおこなうことで、ご家族の方が難聴や中途失聴になっても、「難聴や聴覚に関する正しい知識」と「対処方法」を習得しているため、難聴・失聴者本人の生活上のストレスや苦痛をやわらげ、「難聴者の家族内での孤立」を解決することができます。

・想定されるスケジュール (事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	・難聴の理解を深めるセミナーと相談会の実施	・常盤平6丁目安心安全ステーション ・常盤平診療所 ・実施体制：団体構成員 5名
7月～9月	・難聴の理解を深めるセミナーと相談会の実施	・常盤平市民センター ・松戸市内耳鼻科医 ・実施体制：団体構成員 5名
10月～12月	・難聴の理解を深めるセミナーと相談会の実施 ・ミミーサポーター養成講座の検討	・常盤平市民センター ・松戸市内接骨院 ・実施体制：団体社構成員 8名
1月～3月	・相談ケースの分析 ・セミナープログラムの見直し	・企業要請 ・実施体制：団体構成員 8名

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

(1) 「聴こえと難聴の理解を深めるセミナー」

「耳はどのように衰えるのか?」「難聴の発症する仕組みと種類」「よりよく聴く聴き取るために」の3つのテーマを受講いただくことで耳の仕組みと難聴の発症する仕組みを理解いただき、具体的にどのような改善方法

があるかを習得いただくことで、参加者の難聴者や聴力低下者への配慮の意識が向上する。

→隔月実施 12か月× 隔月1回 =6回 1回あたり15名の参加人数とし120人に提供

- (2) 「聴こえと難聴の理解を深めるセミナー」終了後に相談会を行い、聴者本人もしくはご家族などの話に耳を傾けることで精神的に安心していただくことを目指す。

→隔月実施 12か月× 隔月1回 =6回 1回あたり3名の参加人数とし18人に提供

- (3) 自分の聴力を簡易的に検証したり、相談会に参加いただいたことで、耳鼻科および鍼灸治療院へ足を運ぶきっかけとなり、難聴の早期治療と完治もしくは回復に貢献したい。

※難聴でも突発性難聴の治療方法は耳鼻科での治療とハリ治療があり、中でもハリ治療はこれまで750程度の健常化が「突発性難聴ハリ治療ネットワーク」より報告されています。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ① 幼稚園・保育園の園児向けに当団体理事であり絵本作家のムライタケシ氏の協力のもとステータスシンボルである「くまのミミー」を題材にした絵本を作成し個別販売や寄付を行い難聴の啓蒙活動を行う。
- ② 中小企業のCSR活動を促進するために、当団体と共同もしくはアウトソーシングする形ですすめることで継続的な寄付基盤を構築する。
- ③ 当団体の強みであるIT技術力を駆使し新しい寄付マッチングサービスを提供します。
聴こえ支援スピーカーをほしい団体や医療機関などにサイトに応募をしていただき、当サイト上で聴こえ支援スピーカーを寄付したい団体や企業が寄付をする先を指定する仕組みです。聴こえ支援スピーカーを寄付する際は企業の代表者に御同行いただき寄付を実施します。
- ④ 活動をすすめていく中で、さらに「聞こえや難聴のことを学びたい方」「難聴で困っている方の聞こえの改善支援をしたい方」向けに「ミミーサポーター養成講座」の開催を検討します。認定ミミーサポーターが松戸市の各地域で活動することで、難聴・失聴者本人の生活上のストレスや苦痛をやわらげたり、「難聴者の地域内での孤立」を防ぐことを目指します。

(第6条関係)

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
申請者	会員収入 寄付など	150,000円	
	自己資金合計(a)	150,000円	✓
市	助成金申請額(b)	100,000円	✓
	収入合計(c)(a+b)	250,000円	✓

【助成金申請額(b)チェック項目】

1. 対象となる経費(d)欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	講師謝礼金	30,000円	5,000円×6回
	パンフレット製作費・印刷	50,000円	5000枚×10円=50,000円
	講座配布資料製作費・印刷	60,000円	2000枚×30円=60,000円
	会場費用、消耗品	50,000円	✓
	ボランティア・イベント保険	3,360円	560円×6
	対象となる経費合計額(d)	193,360円	✓
その他	会議費・ケータリング費	20,000円	✓
	打ち合わせ会議費	20,000円	✓
	その他経費合計額(e)	40,000円	
	事業費(f)(d+e)	233,360円	✓

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

(第6条関係)

事業計画書

事業名	園芸活動を基盤とした高齢者宅での地域福祉活動及びマニュアル作成事業
団体名	HGC (Human Green Coordinator)

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

近年、高齢者が自宅の庭の管理をしたいができない状況や、高齢者が地域で孤立しているような現状がある。そこで私たちは、大学で学んだスキルを活かし、依頼主（高齢者）の希望に沿って、高い場所や力を要するような樹木の剪定や、腰に負担がかかる姿勢での苗の植え付けや除草作業、より落ち着ける庭の景観づくりを高齢者に代わって実施する。また、高齢者との交流の時間を持ち、植物の話題提供をきっかけに日常会話を通して、地域コミュニケーションを創出する場としたい。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

本活動を定期的に繰り返して継続することにより、学生と高齢者がコミュニケーションを取りやすい人間関係を創出し、高齢者には植物を育てる事や学生との交流において生きがいを持ちながら、日常生活を安心して暮らせる地域を目指したい。

また、そのような高齢者と接することで、学生自身が今後の社会の在り方や専門スキルを磨く場として醸成できる地域を目指したい。世代を超えたコミュニケーションを取ることが、学生にとっても幅広い見識を持った人材へと育成することができる。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

本活動はすでに西千葉地区において高齢者宅に訪問し、定期的に庭の管理作業をしている。しかしながら依頼主のニーズや健康状態、高齢者を取り巻くサポート体制などを把握したうえで、庭の管理方法を考えなくてはならない場面があった。そこで依頼主のニーズによる学生の対応の仕方として、主に3つのパターンがあると考えられた。

- 1、 庭管理型
- 2、 コミュニケーション型
- 3、 栽培相談型

このパターンごとに

ニーズ把握⇒準備⇒管理作業⇒コミュニケーション⇒アフターケア

というプロセスを確認し、それに伴う学生側の知識的・物理的準備やリスクマネジメントに関するマニュアルを作っていくことで、より多くの学生が地域の高齢者のために動けるような体制を作ることを目的とする。

・想定されるスケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的取り組み1 地域福祉活動	具体的取り組み2 マニュアル作成作業	実施体制、対象、場所など
4～6月	●事業の広報活動 ●地域福祉活動 (樹木剪定作業・除草作業・苗の植え付け・栽培相談・交流時間)	●方向性の確認 (プロセスの確認と集めるべき情報の整理)	【取り組み1】 ●松戸地区を対象とした広報活動 ●高齢者宅庭の管理作業の実施 (松戸地区、1件×2人) 1h：庭管理作業、30min：交流時間 【取り組み2】 ●事前準備会議（月1回、松戸キャンパス）
7～9月	●事業の広報活動 ●地域福祉活動 (樹木剪定作業・除草作業・苗の植え付け・栽培相談・交流時間)	●情報の集約 (依頼主の生活環境の把握・依頼主のニーズの把握・依頼主のサポート体制の把握)	【取り組み1】 ●松戸地区を対象とした広報活動 ●高齢者宅庭の管理作業の実施 【取り組み2】 ●活動の情報集約会議 (月1回、松戸キャンパス)
10～12月	●事業の広報イベント開催 ●地域福祉活動 (樹木剪定作業・除草作業・苗の植え付け・栽培相談・交流時間)	●情報の集約（事前に把握すべき情報の整理・リスクマネジメント対策） ●マニュアルの改善案作成	【取り組み1】 ●千葉大学祭でのブース出展 (松戸キャンパス) ●高齢者宅庭の管理作業の実施 【取り組み2】 ●会議 月1回×3か月（松戸キャンパス）
1～3月	●地域福祉活動 (樹木剪定作業・除草作業・苗の植え付け・栽培相談・交流時間)	●マニュアルの完成 ●報告書の完成	【取り組み1】 ●高齢者宅庭の管理作業の実施 【取り組み2】 ●勉強会 月1回×3回（松戸キャンパス） 大学の先生を交えて、マニュアルの妥当性を検討する。

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

■松戸地区高齢者宅：新規開拓 10 件訪問・庭管理作業の提供

⇒このうち活動の継続依頼をされる割合を 50%目標とし、のべ 25 回の訪問を目指す。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

訪問先が固定されれば、大きな出費は伴わないと考えられる。実費の部分は依頼主様からいただきながら、活動を継続させていきたい。また、マニュアルが整う事で新規参加の学生も継続しやすい活動になり、学生が増えればより活動も発展していく可能性がある。今回マニュアルを完成させ、実践を積むことで、次年度以降シンポジウムなどを開き、情報発信にも力を入れていく。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	会員会費	5,000 円	500 円×10 人
高齢者宅庭作業謝礼金	50,000 円	1 時間 1000 円×25 件×2 人	
	自己資金合計 (a)	55,000 円	
市	助成金申請額 (b)	70,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	125,000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
	消耗品費	10,000 円	蚊取り線香、虫よけスプレー、軍手、肥料など
印刷製本費	60,000 円	チラシ 1000 部×10 円 マニュアル製本 40 冊×500 円 報告書 60 部×500 円	
事業の広報イベント運営費	20,000 円	賃借料 10000 円 消耗品費 10000 円	
	対象となる経費合計額 (d)	90,000 円	
その他	庭の整備費 (苗代など)	25,000 円	1 件当たり 1000 円×25 件
	交通費	10,000 円	25 件×2 人×200 円
	その他経費合計額 (e)	35,000 円	
	事業費 (f) (d+e)	125,000 円	

(第6条関係)

事業計画書

事業名	総合科学教室
団体名	エデンの園科学教室

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

○次代を担う子供達の科学離れが指摘され久しいですが、松戸には ①山崎直子さんのような人材を輩出している、②首都圏のベッドタウンでニューファミリーが多く居住し、教育熱心な親が多い、③特徴的な教育をしている有名な学校が多い、④マブチモーターのような先端技術会社がある等により、子供達に科学に興味を持ってもらえる環境・土壌があると思います。

○然るに本地域（高塚新田）は市の中心部から距離があり、住民や子供が科学に親しむ事ができる施設が無く、それ故か 科学に親しむ機会が他地域に比し少ないようだとの意見を子供達の保護者から多く聞いています。

○一方、超高齢化社会を迎え、高齢者にも住み易い町づくりが求められていますが、それは若年層も一緒に当該地域に住んでいることが前提であり、世代を超えた交流があってこそ本当に生きた町だと言えると思います。大人の知恵が子供に伝わり、相互に尊重した交流が生まれ、子供は楽しく学び、大人もそれを見て微笑む…。現状ではなかなか機会がありませんが、大切な理想だと思っています。

○当団体のある松戸ニッセイエデンの園には、科学ボランティアの経験者や科学者が多数居住しており、子供達に科学を教えることができます。当団体はこれを通じ、上記2つの地域課題【①子供に 科学に興味を持ってもらう ②世代間のコミュニケーションの創出】の解決に貢献したいと思っております。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

○科学に興味をもつ子供が沢山育ち、将来その中から技術立国日本を支えるような技術者や著名な科学者を輩出するような、文化レベルの高い地域になればいいと願っております。

○世代間交流が活発になされ、活気と優しさと潤いに溢れる大人にも子供にも住み心地の良い地域にしたい所存です。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

普段不思議に感じた事を科学的に判り易く具体例で示し、理解を深めてもらうために子供向け科学工作教室に取り組んでいきます。このことが [①子供に科学に興味を持ってもらう ②世代間のコミュニケーションの創出] の2つの地域課題の解決につながると考えます。その具体例を下記に記しました。

[科学教室で工作するもの、または学んでもらう内容の一例]

- 光に関するもの : 万華鏡の制作、日光写真の撮影
- 電気に関するもの : モーターの制作、風力発電機の制作、ラジオの製作
- 圧力に関するもの : 浮沈子の制作、マグデブルクの半球の実験、減圧の体験
- ITに関するもの : パソコンを使い、撮影写真の編集やビデオ化を体験
- その他

・想定されるスケジュール (事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	<p>春期エデンの園科学教室 「テーマ：光・色」</p> <p>第1回 <u>水彩絵の具を調べてみよう</u> (どうして黒色に他の色が混じっているか)</p> <p>第2回 <u>万華鏡で学ぶ</u> (光の屈折、反射について)</p>	<p>○当団体メンバー、外部招聘講師、父兄及び地域ボランティア、学童保育指導員、エデンの園職員により運営</p> <p>○幼児・児童～高齢者までを対象</p> <p>○於：エデンの園小ホール</p> <p>○ペーパークロマトグラフィによる実験を実施。</p> <p>○エデンの園工芸室に作品を展示する他、地域文化祭にも出品。</p> <p>○作品を見せ合い、交流を図る。</p>
7月～9月	<p>夏期エデンの園科学教室 「テーマ：水」</p> <p>第1回 <u>ポンポン蒸気船</u></p> <p>第2回 <u>浮沈子</u></p>	<p>○当団体メンバー、外部招聘講師、父兄及び地域ボランティア、学童保育指導員、エデンの園職員により運営</p> <p>○小学校高学年を対象</p> <p>○於：エデンの園工芸室</p> <p>○各自の発想を生かす指導とする。</p> <p>○浮沈子で浮力の不思議さを伝える。</p> <p>○一部協力し合い工作しなければならない工程があり、コミュニケーション力の向上を積極的に図る。</p>

		<p>○工具が使えない子供の指導に留意し、怪我をさせないように注意する。</p> <p>○エデンの園中庭で実演を行い、交流を図る。</p>
10月～12月	<p>秋期エデンの園科学教室 「テーマ：圧力」</p> <p>第1回 <u>マグデブルクの半球</u></p> <p>第2回 <u>減圧の体験</u></p> <p>第3回 <u>液状化現象</u></p>	<p>○当団体メンバー、外部招聘講師、父兄及び地域ボランティア、学童保育指導員、エデンの園職員により運営</p> <p>○児童を対象。但し、父兄の助力が必要</p> <p>○於：エデンの園工芸室</p> <p>○マグデブルクの半球は、学校で習ったものが本当なのかという興味ある演示を見せ、体験学習をさせるために企画。</p> <p>○減圧の体験は、ビニール製の布団袋に入り掃除機で減圧する事によりどのような事がわかったかと言う体感実験である。</p> <p>○社会問題になった地震による液状化現象を学習により学び簡易模型を作って再現実験をする。</p> <p>○感想を発表してもらい、理解度を把握する事に努める。</p>
1月～3月	<p>冬期期エデンの園科学教室 「テーマ：紙」</p> <p>第1回 <u>二色サイコロ</u></p> <p>第2回 <u>折り返しカード</u></p> <p>第3回 <u>変化する絵</u></p>	<p>○当団体メンバー、外部招聘講師、父兄及び地域ボランティア、学童保育指導員、エデンの園職員により運営</p> <p>○幼児・児童を対象</p> <p>○於：エデンの園小ホール</p> <p>○二色サイコロは、立方体に組むのに工夫しなければならず、知育に役立つ。</p> <p>○画用紙を工作し、デザインで変化を楽しんでもらう。</p> <p>○マジックの要素がある簡単工作ながら、原理は高度で、学びに適している。</p> <p>○作品発表会を実施し、交流を図る。</p>

※各季末には成果発表の時間を設け、児童が何を学び、作り、楽しみ、高齢者との交流で何を得たのか発表して貰います。また高齢者には新しい遊びなどを紹介してもらい、更なる交流を図ります。

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

○達成目標

- ①科学教室開催回数：年10回（前年までは年2～3回）
- ②児童参加者数：延べ200名以上
- ③科学が好き、または苦手ではなくなった子供達の数：延べ140名以上（参加者の7割）
（アンケートや発表会での把握による）

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

○平成25年度にも再応募しますが、その後については規模を縮小してもボランティアの善意に期待し、参加費の若干の増額等を考えに入れながら今後も活動を継続していきます。
また、市内の学校、公民館、施設での開催に向けた活動も発展させていきたいと考えております。

○前項の目的達成に向け、速やかにホームページを開設し、この活動を周知できる体制を整えたいと思っています。

(第6条関係)

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	参加費	60,000 円	@300 円*20 人*10 回実施
	自己資金合計 (a)	20,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	✓
	収入合計 (c) (a+b)	180,000 円	✓

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
	交付対象経費	講師謝金	60,000 円
消耗品代		10,000 円	教材パンフレットの印刷
消耗品代 工作材の加工及び材料費		50,000 円	@250 円*20 人*10 回分
賃借料 (プロジェクター等)		15,000 円	
イベント保険料		5,000 円	
通信費		10,000 円	
対象となる経費合計額 (d)		150,000 円	✓
その他		講師食事代	20,000 円
	スタッフ食事代	10,000 円	
	その他経費合計額 (e)	30,000 円	✓

事業費 (f) (d+e)	180,000 円	✓
---------------	-----------	---

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	松戸発見!さんぽでマッピング
団体名	NPO法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

3月11日の大震災以降、松戸は放射能問題によってホットスポットとしてマスコミに取り上げられ、松戸で住んでいく意味を見つけにくくなっている。松戸へ住み続けるためには住民の気持ちを前向きにし、街の魅力を再発見する作業が必要である。

以前にも増して、人とのつながりの重要性を感じている人や、地域間のネットワーク・関わりが希薄で不安を抱いている人がいる。そういった人々の不安の解決できる身近な人々同士の交流の促進が急務と考える。

また、現在松戸に住んでいる、利用している若い世代が関わり続けたい、住んでいきたいという意識を持ってもらうことが街としての今後の活力に必要である。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

地域のことを深く知ることによって街の魅力を発見し、住み続ける一つの理由となっていく。地域の人や身近な人たちの話を聞いたり、出会うことができることでより地域のネットワークも広がっていく。住民それぞれが場所と人に愛着を持つことで住んでいきたい街となる。特に若い世代が自分の街の住民や地域へ関心を持ち、住んでいきたいと感じる松戸にしたい。

さらに街のよいイメージが発信され、若い世代を中心に足を運び街を利用することで地域の活性化を促す。それによって松戸の、放射能による落ち込んだイメージの払しょくをし、震災前以上にいきいきとした街にしたい。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

1. 街や地域の魅力を発信する人材の育成。

街の魅力やおすすめのスポットを見つけ音声ガイドや地図で発信する人材(さんぽ人)を養成する。多世代のいろいろな立場の方に参加してもらい、発信・利用者側ともに街を知り、地域の人々との交流を深め、松戸への愛着をもってもらおう。その地域情報をいかに魅力的に発信するか共に考え運営する人材(しかけ人)を育成する。情報ツールが身近な若い世代を取り入れ、地域への関心と、様々な住民への関わりを持ってもらう。

2. Web上で住民参加型のまちあるきマップを作製する。

人に勧めたくなるよう地域のスポットや情報をWebマップに書き込んでもらう、通常の観光マップにみられない住民視点の魅力を挙げたマップをつくっていく。マップを活用することで「住んでみたい」「いいところがある街」と感じてもらう。またさんぽ人と、Webやガイドを利用した参加者がマップを編集することによって今まで接したことのなかった地域の人同士の交流を図る。

3. 情報をIT機能で発信し身近な若い世代に興味をもってもらおう。

市外の広い人、若い世代の住民に松戸に関心を持ってもらうようWebや音源データなどで情報発信する。市外の人にも松戸に足を運び、散歩コース以外にも街を巡り利用することで街の活性化につなげていく。

・想定されるスケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	年間企画の作成 HPの立ち上げ、広報 散歩の利用概要の作成	プロジェクトチームの立ち上げ CoCoTのHP内にページの構築 AREのメンバーに参画し広報、情報発信
7月～9月	運営ボランティアスタッフ募集 松戸アートラインの情報収集 散歩人の募集 募集の営業	Let's体験に団体として参加、学生のボランティア受け入れ スタッフ4名に加えボランティアの運営スタッフ3名確保 多世代を混ぜた散歩人の募集・チーム分け アートライン実行委員会と提携
10月～12月	散歩人の研修 水戸街道の散歩コース取材、音源化 散歩コースの編集、情報発信 マップ利用者の情報投稿、管理 松戸アートラインコースの取材、音源化	ワコールアートセンターの聞き耳プロジェクトによる研修。 オープンストリートマップの活用で、散歩人がコース情報をWebに掲載。 アートラインプロジェクトの作品会場を散歩できる仕組みづくり。4組の散歩人でパターンを作る。 アートラインの開催がなかった場合、坂川～戸定邸めぐりコースを作成。
1月～3月	さんぽボランティア、利用者の交流会 報告書の作成	編集に携わったメンバーで交流しスタッフの関係を継続的にする

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

聞き耳コースを2コース作成。すべての音源のダウンロードが利用され、利用者からのマップ書き込みを目指す。研修を実施しさんぽ人ボランティアを年間6人、計12名（大人：6名・若年世代：6名）の養成をする。運営スタッフボランティア（しかけ人）の育成3名、マップ利用者（うわさ人）20名を目指し、継続的に参加するようになってもらいたい。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

初年度でボランティアの受け入れ態勢と運営の仕組みを整え、継続してホームページの運営を行う。引き続き散歩人の募集と養成をし、交流の幅・出会いの幅を広げる。

国交省の「まちめぐりナビプロジェクト」の活用事例や若者のニーズに合った発信を調査し、取り入れていく。多くの人に参加・利用しやすい情報ツールでより広く松戸の魅力を発信していく。

AREに参加し、この活動の情報発信を行い、流山・柏・我孫子など他地域にもプロジェクトの拡充を促してサポートする。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
			41600 円
	自己資金合計 (a)	41600 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	141,600 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	賃借料	22,000 円	録音機材・ICレコーダー2台 集音マイク1台
	印刷費	41,000 円	プロジェクト概要@40*1000 部 ボランティア募集広報@2*500 部
	使用料	12,600 円	会議場所:210×3×10=6300 交流会場:1050×3×2=6300
	委託費	20,000 円	Web 掲載用マップの構築費
	通信費	16,000 円	資料郵送費
	対象となる経費合計額 (d)	111,600 円	
	その他	情報通信費	20,000 円
交通費		10,000 円	交通費:2000×5 回
その他経費合計額 (e)		30,000 円	
	事業費 (f) (d+e)	141,600 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。